

2023年1月29日

2023年度聖路加国際大学大学院
看護学研究科修士論文

COVID-19 感染拡大における産後女性の IPV と
精神的健康、およびレジリエンスの関連

Association between Intimate Partner Violence, Resilience and Mental Health
among Postpartum Women during COVID-19 Pandemic

21MW006

木原 由莉

要旨

目的：本研究の目的は、生後1歳の乳児をもつ女性を対象として、新型コロナウイルス感染拡大下でのIPVとレジリエンス、および精神的健康の関連性を明らかにすることであった。

方法：本研究は、横断調査であった。ウェブモニターインターネットを介した、質問紙調査を実施した。質問紙には、女性への暴力スクリーニング尺度、うつ・不安尺度、健康関連QOL尺度、レジリエンス尺度の他、デモグラフィクス要因、調査時点での生活状況(外出頻度など)、第5波時点の生活状況が含まれた。分析方法は統計ソフトSPSS(Ver.24)を用いてIPV、うつ・不安尺度をそれぞれ従属変数としてロジスティック回帰分析、レジリエンス尺度を従属変数として重回帰分析を実施し、関連する因子を探索した。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。(承認番号：22-A013)

結果：分析対象の329名のうち、調査時点のIPV陽性者は169名(51.4%)であり、第5波時点のIPV陽性者は150名(45.6%)と極めて高い陽性率であった。VAWSの平均点は調査時点で4.07(SD=4.67)、第5波時点で3.76(SD=4.65)であり、調査時点のIPVと第5波時点のIPVには強い相関が見られた($r=0.908$, $p<0.001$)。IPVに関連する因子は、女性の精神科受診歴で最も強く(AOR:4.83, 95%CI:2.62-8.92)、その他にパートナーの外出頻度(AOR:2.10, 95%CI: 1.15-3.83)、サポート満足感(AOR: 2.64, 95%CI:1.45-4.82)であった。本研究では、経済状態についての変数とIPVの関連において有意な差は認められなかった(AOR:1.64, 95%CI: 0.75-3.56)。精神的健康との関連が見られたのは、IPVで最も強く(AOR:5.52, 95%CI: 3.34-9.96)、他にはパートナーの外出頻度(AOR: 2.44, 95%CI: 1.39-4.29)で関連が見られた。レジリエンスと関連が見られたのは、IPV($\beta=6.191$, $t=2.332$, $p=0.02$)とQOL尺度の身体サマリースコア($\beta=0.551$, $t=2.774$, $p=0.006$)、精神サマリースコア($\beta=0.665$, $t=3.176$, $p=0.002$)であった。

結論：本研究にてコロナ禍での産後のIPV陽性女性の実態と精神的健康、レジリエンスの関連について明らかになった。医療、保健分野ではIPVの潜在的なリスクを含めたスクリーニングを積極的に行っていくことが必要である。加えて、支援へのアクセスが困難なIPV陽性女性への介入や支援体制を確立していくことが求められ、更なる研究の必要性が示された。